「グリーンコープ商品の確かさを確認する活動」をすすめていきます

ウインナー類の羊腸について、グリーンコープがメーカーと約束していたものではなかったという重大事故が発生したことをきっかけに、グリーンコープの商品の確かさを組合員自身で確かめる活動に取り組むこととにしました。２０１８年11月、グリーンコープ生協ふくおかの組合員によるメーカー訪問から具体的な活動がスタートしています。

２０１９年は、グリーンコープに集うそれぞれの単協でも活動が始まり、より多くの組合員が活動にかかわることで、グリーンコープの商品をさらに確かなものに育てていく一年とします。

約束どおりに作られていることを確かめる

グリーンコープの商品は、「子どもたちに安心して食べさせられる、安心・安全な食べものがほしい」という母親の思いを大切に作られています。一つひとつの商品について、原料はもちろん製造工程など細かい約束をメーカーと交わし、「グリーンコープ商品仕様書」という契約書を取り交わしています。

ウインナーの羊腸の重大事故に対して、２０１８年３月、消費者庁より「優良誤認」の措置命令が届けられました。それを受けて、組合員が安心して商品を利用できるようにするための具体策の一つとして考えられたのが、「グリーンコープ商品の確かさを確認する活動」です。各単協の組合員がメーカーを訪問し、商品が約束どおりに作られているかをチェックします。活動をスタートするにあたり、原材料や添加物、原料産地などを組合員の目できちんと確かめることができるチェック表「特別注視確認書」を作成しました。このチェック表に基づいて、組合員自らが、「子どもたちに食べさせたい安心・安全な食べもの」であるかを確かめていきます。

人と人との信頼を力に商品をさらに確かなものに

グリーンコープは、前身生協の時代から今日まで、組合員とメーカーがお互いの顔の見える関係を大切にしてきました。今回の活動をとおして、組合員の思いをメーカーに直接伝えることよって、私たち組合員が生み出した商品を、さらに確かなものにしていくことができると考えます。大切なのは「人と人との関係」です。

「グリーンコープ商品の確かさを確認する活動」に参加した組合員は、これまで以上に自信をもって商品をおすすめすることができるようになります。より多くの組合員が活動に参加することによって、グリーンコープの成長・発展につながる活動となっていきます。

「グリーンコープ商品の確かさを確認する活動」について検討をすすめます



グリーンコープ生協ひろしま 理事長
グリーンコープ連合会会長
熊野 千恵美さん

グリーンコープの商品の基準はとても厳しく、私たちの手元には、その厳しい基準をクリアした食べものが届いています。今回の活動は、メーカーとグリーンコープとで決めた約束がきちんと守られていることを、組合員が自分たちの目で確かめる取り組みです。私たちはグリーンコープにしかないこだわった食べものを食べているということが、ダイレクトに伝わる活動になると思います。

ふくおかとひょうごがモデルとして一足先に活動に取り組み、他単協も、それぞれの状況に合わせてすすめ方を検討しています。ひろしまを例に挙げれば、エリア内に36もの視察先があります。いつも食べている商品が、自分たちの身近なところで作られていたことに改めて驚いています。

商品の確かさを確認することで改めて「グリーンコープってすごいね」と実感できるチャンスです。この活動に参加した組合員がグリーンコープ商品の素晴らしさを伝えていくことで、この機会に活動組合員を増やしていきたいと考えています。メーカーを訪ねるのが今からとても楽しみです。

組合員活動からワーカーズへ次のステップを考えています

ひろしまでは、ワーカーズになることで、ワーカーズとの距離が縮まり、自分にもできると思う組合員が増えるといいなと思います。今後も、ワーカーズという働き方をとおして自分を活かしていく人を増やしていきたいと思います。

ひろしまでは、グリーンコープ30周年、ひろしま25周年を２０１８年度、２０１９年度の２年間でお祝いしています。２０１９年度も引き続き、各支部で大きな講演会を開催します。「食」「いのち」「くらし」をテーマに、日頃はなかなか呼べない講師の方を予定しています。グリーンコープの良さやこだわりを伝え、仲間づくりにもつながる講演会になると思います。

共生の時代
みどりの地球をみどりのままで
2019 1月

■発行：一般社団法人グリーンコープ共同体理事会
■編集：共生の時代・編集部
■〒８１２－８５６１
福岡市博多区博多駅前一丁目５番１号
博多大博通ビルディング３階
ＴＥＬ０９２（４８１）７９２３
ＦＡＸ０９２（４８１）７８７６
http://www.greencoop.or.jp/

Contents

2019年度に向けて 理事長あいさつ 2･3
グリーンコープの生活困窮者自立支援の取り組み 第5回 生活困窮者自立支援全国研究交流大会 4･5
2018年度 脱原発学習会 6
グリーンコープの輪・和・環 グリーンコープ生協とっとり 吉岡 古都さん 7
別紙にて、「放射能汚染と向きあう（放射能測定室より）」を掲載

チェック！ あけましておめでとうございます。
今年も元気にグリーンコープを伝え、仲間を増やして、いろいろなことに取り組んでいきたいと思います。
今年もよろしくお願いします。

人と人とのつながりを大切に 商品の利用を伸ばし 仲間を増やしていきます

各単協では、今年力を入れたい楽しい活動を相談しています。新年度に向かう理事長の思いを聞きました。

30周年記念開発商品「綾肌」の開発を進めています



グリーンコープ生協 みやざき
鈴江 信子 理事長

2018年はみやざき20周年、グリーンコープ30周年を記念して、大きなまつりや大試食会を開催しました。テレビ、ラジオ、新聞などのメディアでもグリーンコープを広くアピールできました。問い合わせなどの反響があり、とても嬉しかったです。みやざきは小さな単協で、グリーンコープを知らない方がまだまだ多いので、今年の秋は都城市でまつりを行う予定です。30周年記念開発商品「綾肌」（プラセンタ綾シリーズの化粧水と乳液）も秋に登場する予定です。使う原料も厳選して、納得できる良い商品になりそうです。

「グリーンコープ商品の確かさを確認する活動」の確認書は、とても細かく決められています。自分たちの目でグリーンコープの商品が約束通り作られていることを実感して、そのことを組合員に伝えていきたいと思いました。メーカーとこれまで以上に踏み込んだ交流ができるのではないかと楽しみにしています。

グリーンコープでんきの取り組みを進めていきます



グリーンコープ生協 さが
柳川 晶子 理事長

さがでは、グリーンコープでんきの取り組みをさらに進めようと、昨年11月に、「※福島ぼかぼかプロジェクト」のお二人にきていただき、福島の現状を話していただきました。また、電気の「託送料金」の学習会で学んだことを、お母さん目線で地域の組合員に発信できるように、活動組合員がさらに地区会で調べて勉強している様子です。このような動きをまとめて、2019年は脱原発運動に力を入れていきたいと思っています。また、各地域のキープ&ショップの周年祭など、イベントの時にも脱原発のことを一緒に伝えていきたいと思います。

2018年から福祉やお店、生活再生などの各ワーカーズが理事会に参加してまく取れるようになり、さがにとって、今後大きな力になっていくと思います。

※放射線量の高い地域に暮らす子どもたちが線量の低い地域で遊び学べる保養支援を行っている。グリーンコープは食材を提供している

シャボン玉フォーラムinやまぐちの成功に向けて取り組んでいきます



グリーンコープ やまぐち生協
佐々木 春代 理事長

2019年5月18・19日にシャボン玉フォーラムinやまぐちを開催します。基調講演をお願いする講師や分科会の内容も決まりました。山口県の魅力を全国の皆さんに知ってもらい、せっけんをきっかけに水環境や自然を守っていくことの大切さを呼びかけます。

夏休みには福島の子どもひまわり大使の受け入れを予定しています。山口の自然の中で、放射線の心配をせず思いっきり遊んでほしいですね。子どもたちをどこに連れて行こうかと、今からわくわくしています。

原発のない安心して暮らせる未来を自分たちの手でつくっていくために、もっとたくさんの人にグリーンコープでんきを伝え広げていきます。

今年も、みんなで元気に活動していきます！

グリーンコープをもっともっと伝えていきグリーンコープの輪を広げていきます



グリーンコープ生協 おかやま
堀 早織 理事長

昨年は、西日本豪雨水害で被災した方々へ、できることから支援に取り組みました。炊き出しや仮設住宅でのサロンの場で、「美味しかったよ」「きてくれてありがとう」という言葉に、温かい気持ちになったと同時に「当たり前の生活」の大切さを改めて感じました。また、いろいろな方との出会いを通して、ひとりの力ではできないことを、グリーンコープに集うみんなで実現できたことは、大きな支えであり、今後につながる大きな力になりました。人と人との支え合いや、互いを思いやる心に触れ、嬉しかったです。

また、おかやまでは福祉活動組合員基金が設置され、地域でがんばっている団体を応援し、地域に根ざした活動へと進めていきたいと思います。

昨年は、福祉・商品に加え平和環境委員会を立ち上げ、グリーンコープのことをもっともっと知ろうと学習会を開催しました。2019年も出会いを大切に、グリーンコープの輪を広げていきます。

全組合員に向けてでんきのアンケートに取り組みます



グリーンコープ生協（長崎）
佐藤 恵美子 理事長

2019年、（長崎）は創立40周年を迎えます。それを記念して、まつりを大々的に開催する予定です。昨年開催したグリーンコープ30周年まつりの経験を活かし、たくさんの方に楽しんでいただけるまつりにしたいと思っています。

グリーンコープでんきの取り組みについては、全組合員にアンケートを実施する予定です。まずは電気の「託送料金」の問題を知ってもらい、母親目線でしっかりと考えることが必要だと思っています。その上でグリーンコープでんきの契約やグリーン電力出資金への出資に少しでもつなげられたらと考えています。

「グリーンコープ商品の確かさを確認する活動」については、これからどのように進めるか検討を始めます。地元のメーカー・生産者を知り、交流することで、信頼関係を築くことができ、組合員にとってもメーカー・生産者にとっても意義のあることだと思います。

熊本県産の食材を使った商品開発をめざします



グリーンコープ くまもと
髙濱 千夏 理事長

グリーンコープ30周年の単協商品開発の検討を、新たに立ち上げる委員会で行います。やまびこ会のれんこんを始め、できるだけたくさんの熊本県産の材料を使って商品ができたら嬉しいですね。

昨年は、商品交流会を開催しました。複数のメーカーの方から、商品のこだわりや新しい食べ方の提案、商品ができるまでのご苦労など詳しい話を聞くことができました。組合員は、商品やメーカーをより近くに感じることができたと思います。

熊本地震から2年半過ぎましたが、不自由な生活を余儀なくされている方がまだ多くいらっしゃいます。グリーンコープの美味しい食べもので、皆さんが笑顔になっていただければと、食堂の開催や移動販売などの支援を継続していきます。

くまもとは、2020年に20周年を迎えます。2019年はその準備の年として、くまもとならではの商品開発と、私たちらしい活動をしていきたいと考えています。

「Hug Recipe」を相棒に地域に飛び出していきます



グリーンコープ生協 おおさか
山田 由美 理事長

昨年秋から、「Hug Recipe（ハグレシピ）」（グリーンコープオリジナルレシピ集）を使った料理会に取り組んでいます。グリーンコープの組合員が普段作っているものを集めたハグレシピは、とても作りやすいと好評です。2019年は、「ハグレシピ料理会」と銘打った企画を立て、地域にどんどん出て行こうと思っています。まだ出会えていない組合員と一緒にワイワイ楽しく料理をしながら、グリーンコープの良さと楽しさをアピールしたいと思います。

昨年開催した「まるごとグリーンコープまつり」は、地域の方にも喜ばれ「またすくにやって欲しい」という声が聞こえるほど楽しんでもらいました。予想以上の2000人もの来場者があったのは、地域で活動する組合員が、くちコミや自分たちでチラシを配ったりしたことが、地域へのアピールになったからだと思います。そういう力を活かして、仲間づくりにつなげていければいいと思っています。

組合員との対話を大切にしてワクワクするような活動をしていきます



グリーンコープ生協 とっとり
小椋 あけみ 理事長

昨年とっとりは、グリーンコープ30周年を記念して、10年ぶりに大きなまつりを開催しました。メディアを使った宣伝も行い、グリーンコープを地域に知っていただく大きなチャンスとなりました。まつりの振り返りでは「次はこうしたい」と、積極的な意見が組合員から出ました。2020年に30周年を迎えるとっとりにとって、とても良い経験となりました。

昨年は、脱原発やグリーンコープでんきの話をする少人数の会も開催し、グリーンコープでんきに切り替えた方、切り替えに悩んでいる方などに参加いただきました。対話をする中でグリーンコープ連動を伝え、理解していただき、グリーンコープでんきへの切り替えや、出資金の申し込みがありました。今年も、組合員と対話しながら取り組んでいきます。

2019年は、2020年のとっとり30周年をどういうふうに迎えようかと、ワクワクするような活動をしていきたいと思います。

2018年はグリーンコープかごしまでも様々な取り組みを行いました



グリーンコープ かごしま生協
下本地 紀子 理事長

30周年記念の商品開発では、グリーンコープと共に、自然な香りで安心して使えるルームスプレーを開発しています。

また、グリーンコープでんき、特に電気の「託送料金」についてみんなで学習しています。組合員に関心を持ってもらえるように、作り工夫して伝えています。

「グリーンコープ商品の確かさを確認する活動」は、先行するふくおかやひょうごの様子を見て、焦らずにかごしまのペースで進めていきたいと思います。

その他、「霧島りすの森保育園」が認可を受けたり、かごしまで初めての小規模多機能ホームがオープンしたりと、福祉も少しずつ広がっています。

2019年は、理事長として最後の年です。組合員・ワーカーズ・職員と一緒に利用普及を進め、地域のイベントや催し等で楽しくグリーンコープをアピールして、かごしまをしっかり盛り上げていきます。

一足先に「グリーンコープ商品の確かさを確認する活動」に取り組みます



グリーンコープ ひょうご
山本 陽子 理事長

「グリーンコープ商品の確かさを確認する活動」を理事会で提案したところ、やってみたいという声がみんなから上がりました。ひょうごでは、活動組合員だけでなく、組合員事務局やキープ&ショップのスタッフまで対象を広げようと検討しています。組合員がメーカーや生産者と交流することで顔見知りになって、注文する時や食べる時にふと顔が思い浮かぶように、作る側も「あの人たちが食べてくれている」と思って作ってくれると思います。これからの新たな出会いが楽しみです。楽しいというのは活動の基本です。大変なこともありますが、結果が付いてくれば、やって良かったとなるはずです。

昨年は、組合員を増やすためにつながりをつくる活動をしようと目標を掲げ、11月には組合員とワーカーズ、職員みんなで力を合わせ大きなまつりを成功させることができました。その力をバネに、様々な生協が競合する兵庫県の中で、グリーンコープを選んでもらえるよう取り組んでいきます。

大きなまつりをやり遂げた力をバネにして



グリーンコープ生協（島根）
吉田 由佳 理事長

2019年に向けて、昨年の様々な取り組みが大きな力となりました。11月のまつりでは、普段なかなか交流できずにいた生産者やメーカーとの出会いが実現し、より組合員に身近な存在となりました。商品の強化に向けて、「グリーンコープ商品の確かさを確認する活動」も検討していこうとする中で、組合員もメーカーもお互いが一緒にがんばろうという気運につながるのではと考えています。また、地域の空き店舗を活用して、キープ&ショップと年齢を問わずみんなが集える居場所づくりを進めています。理事研修を通してワーカーズを身近に感じることができ、地域を支えるワーカーズとして活躍したいと夢が膨らんでいます。まずは、キープ&ショップや居場所づくりに関わるワーカーズの立ち上げを進めていこうと考えています。

組合員、ワーカー、職員の連携がさらに高まり、強い団結力となって地域の中で（島根）の底力を発揮し、（島根）がもっと輝いていけると思うと楽しみです。

「グリーンコープ商品の確かさを確認する活動」や遺伝子組み換え問題について力強く取り組んでいきます



グリーンコープ生協 ふくおか
三原 幸子 理事長

ふくおかは、「グリーンコープ商品の確かさを確認する活動」を昨年からモデルとして実施しています。その経験をもとに、2019年の本格始動に向けて、どのように展開していくか検討する予定です。この取り組みによって、メーカー・生産者を訪問した組合員は、地元で作られる商品に対して一層愛着を感じ、商品の良さを自分の言葉で伝えたくなるのではないかと思っています。

昨年、大手菓子メーカーなどに手紙を届け、遺伝子組み換えについてどのように考え、対策をとられているか尋ねました。2019年も引き続き、遺伝子組み換えや種子法の問題について様々に取り組んでいきたいと思います。

今年は2020年にふくおかが主催となり開催する「水俣展」に向けての準備開催として、水俣から語り部の方を招いて学習会を開催したり、現地を訪問して理解を深め、開催時には自分たちで語り部を務められるようになりたいと考えています。

お店やアンテナショップを活かした活動を進めています



グリーンコープ生協 おおいた
宇都宮 陽子 理事長

2018年は30周年の大きなまつりを組合員、ワーカーズ、職員と共にやり遂げることができました。この勢いを今年の取り組みにつないでいきたいと思っています。

おおいたには2017年7月にオープンしたアンテナショップ「インフォメーションプラザ中央町」があります。今も学習会やワークショップを開催しています。さらに楽しい企画をみんなで考えて、活用していきたいと思います。また、お店のワーカー、組合員、職員をメンバーに店舗プロジェクトを立ち上げ、おおいたにある4つのお店の課題を出し合い、活性化に向けて検討を進めています。インフォメーションプラザやお店をさらに活用し、グリーンコープ商品の良さや様々な取り組みについてしっかり伝え、新しい組合員や地域の方々に知ってもらって、利用を増やすことが大切だと思います。「グリーンコープ商品の確かさを確認する活動」については、どのように取り組んでいくかアイデアを出し合い、おおいたらしく取り組みたいと考えています。

助け合い支え合いのネットワークづくりをすすめています

生活協同組合としての蓄積を活かして生活困窮者自立支援の事業を受託しています

グリーンコープは、誰もが安心して暮らせる地域づくりの一環として、生活困窮者支援に取り組んでいます。

２００６年に多重債務者の生活再生を支援するために開設した生活再生相談室は、10年にわたる実績とノウハウが認められ、２０１５年４月に施行された生活困窮者自立支援制度の事業の一つ、家計相談支援事業（２０１８年６月の制度改正により「家計改善支援事業」と名称変更）のモデルとなりました。

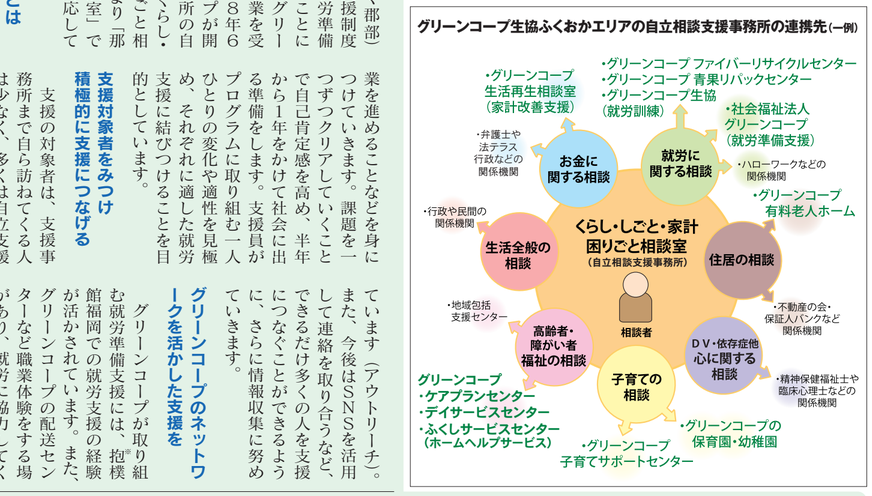
地域の中の助け合い支え合いをすすめてきたグリーンコープだからこそできる支援があると考え、制度の施行から３年余り経った現在、14単協の中の９単協のエリアで家計改善支援事業や自立相談支援事業などの事業を各自治体から受託しています。

社会福祉法人グリーンコープ、おかやま、ふくおか、さがが受託する事業について紹介します。また、２０１８年11月に開催された生活困窮者自立支援全国研究交流大会のようすも併せて報告します。

グリーンコープの事業や資源を最大限に活かして

生活困窮者自立支援制度は、生活に困窮する人を地域のネットワークを活用して支え合う制度です。

グリーンコープは、事業を受託する中で、地域福祉の取り組みや事業の中で培ってきた経験や人と人のつながりを活かし、行政や地域の支援団体などと信頼関係を築きながら支え合いのネットワークを広げ、様々な困りごとを抱えた方たちに寄り添って支援しています。



就労準備支援事業　社会福祉法人グリーンコープが福岡県および那珂川市より受託

福岡県（市を除く郡部）が生活困窮者自立支援制度の任意事業である就労準備支援事業を開始することに伴い、社会福祉法人グリーンコープが県から事業を受託しました。２０１８年６月よりグリーンコープが開設している県内５ヵ所の自立相談支援事務所「くらし・しごと・家計 困りごと相談室」で、同年10月より「那珂川市困りごと相談室」でも専門の支援員が対応しています。

就労準備支援事業とは

就労準備支援事業は、生活リズムが崩れている、社会との関わりに不安がある、就労意欲が低下しているなど、直ちに就労支援することが難しい人を対象としています。社会と接点を持たずに引きこもっている人が多く、数人での簡単な作業、職場見学・体験などのプログラムを通して、コミュニケーション力や協力して作業を進めることなどを身につけていきます。課題を一つずつクリアしていくことで自己肯定感を高め、半年から１年をかけて社会に出る準備をします。支援員がプログラムに取り組む一人ひとりの変化や適性を見極め、それぞれに適した就労支援に結びつけることを目的としています。

支援対象者をみつけ積極的に支援につなげる

支援の対象者は、支援事務所まで自ら訪ねてくる人は少なく、多くの場合は自立支援相談に来た親御さんや、民生委員や社会福祉協議会などからの情報を基に、支援員が訪問して支援につなげています（アウトリーチ）。また、今後はSNSを活用して連絡を取り合うなど、できるだけ多くの人を支援につなぐことができるように、さらに情報収集に努めていきます。

グリーンコープのネットワークを活かした支援を

グリーンコープが取り組む就労準備支援には、抱樸館福岡での就労支援の経験が活かされています。また、グリーンコープの配送センターなど職業体験をする場があり、就労に協力してくれる取引先も多くあります。困りごと相談室には自立相談支援員と家計改善支援員も常駐し、情報共有や支援の連携がスムーズにできるのも特長です。

今後はさらにグリーンコープのネットワークを活かし、就労後のサポートにも力を入れていく予定です。

※生活困窮者の自立を支援する入居施設


支援プログラムの一つ、レザークラフトを体験するようす

第５回 生活困窮者自立支援全国研究交流大会が開催されました

２０１８年11月10・11日、今回で５回目となる生活困窮者自立支援全国研究交流大会が熊本市で開催されました。生活困窮者の支援に携わる全国の自治体や社会福祉協議会、事業を受託している民間団体などの支援員や関係者、研究者など総勢１２６５人が集まり、熱い議論を交わしました。

大会を主催する一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワークは、生活困窮者自立支援制度に基づく支援に携わる人たちが連携し、新しい制度を自分たちの手でよりよいものにしていこうと設立された団体で、グリーンコープが事務局を担っています。今回の大会には、グリーンコープから２５４人が参加し、行委員会メンバーとして大会の運営を支えるスタッフも担いました。２日間にわたり、グリーンコープの支援員も多数参加し、全国の支援者との交流を深めました。



制度改正に反映された支援現場の声

２０１８年６月の制度改正により、自立支援基本理念が明確に打ち出され、生活困窮者に対する支援体制はより包括的に強化されることになりました。改正点の一つとして、必須事業であった立相談支援事業だけでなく、任意事業である家計改善支援事業と就労準備支援事業も実施することが、各自治体の努力義務となりました。今後、この３事業の一体的実施が促進されていきます。日々困窮者と向き合う現場の声が国を動かしたとも言えます。

困窮者の支援には、立相談支援事業と家計改善支援事業の連携が欠かせません。グリーンコープの家計改善支援員は、全国で支援員の養成講座の講師を務めながら、計改善支援の有効性を伝えてきました。今回の制度改正により、家計改善支援事業を実施する自治体が大きく増えることが期待されます。

家計改善支援事業の１００％実施をめざして

１日目の徹底討論では、グリーンコープ生活再生事業推進室長の行岡みち子さん（連合会常務理事）がパネラーとして登壇しました。「家計改善支援事業は、相談者の生活を立て直すために絶対に必要な事業です。しかし現在、全国の自治体の約４割でしか取り組まれていません。家計簿を指導するのではないかなどと誤解され、本来の役割や意義が理解されていないことが大きな理由と思われます。今回の制度改正を追い風に、自治体への働きかけを強め、理解を広げていきます」と家計改善支援事業の重要性を訴えました。


くまもとふくおかの店舗ワーカーズを中心に大型親会のケータリングを担い、くまもとの配食ワーカーズが参加者の昼食弁当を担当。会場のあちこちで「美味しい」との声が聞こえました

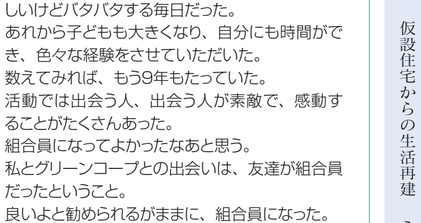
グリーンコープのケータリングやお弁当が好評でした

生活困窮者自立支援制度が誕生した背景

日本はこれまで、安定的な雇用を土台とした社会保険制度や労働保険制度（第１のセーフティネット）がある程度機能していたため、生活保護制度（第３のセーフティネット）によって補うことで、国民は安心して生活することができていました。

しかしリーマンショック以降、経済状況の悪化などにより安定した雇用が失われ、生活に困窮する原因が多様化、多重化し、既存の仕組みだけでは国民生活を支えることができなくなりました。様々な問題を抱えて生活に困窮する人たち、社会から孤立する人たちが後を絶ちません。

生活困窮者自立支援制度は、第２のセーフティネットとして、生活保護に至る前の段階から早期に支援を行うために誕生しました。



グリーンコープ生協くまもと　家計改善支援を とおして熊本地震の被災者を支援しています

家計改善支援事業を熊本県から受託

分科会では、グリーンコープ生協くまもと生活再生相談室長の村上浩勝さんが、熊本地震後の支援のようすを中心に話をしました。

県の家計改善支援事業を受託しています。

10年を超える生活再生相談室の実績

くまもとの生活再生相談室は２００８年開業、２０１０年からは県の委託事業として生活再生のための貸付を行っています。開業から６６００人の方と面談をし、約７５００件の方に貸付を行っています。

生活再生の貸付を適切に行うためには家計改善支援がとても大切です。家庭におけるお金の流れを数値で表す（見える化する）ことで、相談者に自分の家庭の収支を理解していただき、相談者自らが解決に向かえるよう寄り添いながら生活を再生させていきます。生活困窮者自立支援制度がスタートした３年前から、

根本的な問題の解決を目指す（地震からの再建に向けた家計改善支援）

２０１６年４月の熊本地震発生後は、被災された方々を対象にした家計改善支援を行政と連携して行っています。地震の初年度には、市町村が被災者世帯に対して生活の再建に必要な資金を低利で貸付ける「災害援護資金」への申請前に家計改善支援を行い、申請予定者の家計収支の見通しを立て、貸付申込金額や返済金額を含め、できるだけ負担の少ない方法等をアドバイスしました。今年度は仮設住宅やみなし仮設住宅からの生活再建への支援として、災害公営住宅や民間住宅等への移行前の家賃負担への備えを中心に家計の見直し相談を継続しています。また、一部の町村からは、税金の滞納がある方が災害公営住宅を希望される場合には仮申請までに家計改善支援を受けて滞納税の計画的な納付とともに今後の生活への見通しが立つようにしてもらうための支援依頼があり、現在までに２５０世帯以上の面談を実施しています。

熊本地震から２年半が経過し、仮設住宅等に入居されている数は徐々にですが減少しています。しかし、これから様々な支援も終了していく中、今後の生活再生への見通しが現時点でも立たないまま入居期限が迫っている方も少なくなく、生活困窮に陥ってしまうケースも予想されますので、できるだけ早期に出会い、生活再建等につながるように心がけています。

グリーンコープ生協おかやま　相談者との信頼関係づくりを第一に支援しています

家計改善支援事業を岡山市から受託

２０１８年４月から、岡山市より家計改善支援事業を受託しています。相談者が自ら相談に訪れるだけでなく、市の地域包括支援センターやソーシャルワーカーなどから届けられる情報を基に家計改善支援につながるケースもあります。事業開始から半年を経て、行政や他の支援団体とのネットワークも広がっています。

家計改善支援員の黒田明穂さんは、相談者と信頼関係を築くことを何よりも大切にしていると言います。「まずはしっかり話を聴くことから始めます。人は心のつながりを感じることで、自ら行動することができると実感しています。相談に来られた方の多くは家族にも相談できずに悩んでいます。相談者と一緒に解決の糸口を探して将来の見通しを立て、『安心した』という一言をいただくと嬉しいです」。

グリーンコープ生協ふくおか　貧困の連鎖を断ち切るために、子育て世代を支援します

子ども支援オフィスの事業を福岡県から受託

グリーンコープ生協ふくおかは福岡県からの委託を受け、経済的に不安があり、子育てに様々な悩みを抱える方からの相談を、ワンストップで対応する窓口「子ども支援オフィス」を、県内５ヵ所の「くらし・しごと・家計困りごと相談室」の中に開設しています。貧困の連鎖を断ち切るため、８人の子ども支援員が子どものいるご家庭の困りごとの解決に向けて取り組んでいます。

相談者とは時間をかけて関係をつくり、グリーンコープのネットワークを活かして様々な機関と連携しながら、一人ひとりに最適なプランを立てていくことを大切にしています。

グリーンコープ生協さが　支援者同士が連携して支援のネットワークを広げています

NPOスチューデント・サポート・フェイスと連携協定を締結

佐賀県より家計改善支援事業を受託し、２０１５年４月に「佐賀県家計の困りごと相談室」（以下、困りごと相談室）を開設。県内10町を対象に家計改善支援を行っています。

昨年10月、佐賀市を拠点に子ども・若者の相談支援に取り組むNPOスチューデント・サポート・フェイスと連携協定を結びました。NPOスチューデント・サポート・フェイスは、現在佐賀市の自立相談支援事業を担っています。相談者の多くは家計の問題を抱えており、それぞれの支援員が生活困窮者の支援で培ってきたノウハウやネットワークを共有することで、より多くの支援先につないでいきます。

「誰にも相談できずに一人で困りごとを抱えた方たちがたくさんいます。誰でも相談できる窓口があることを知らせていきたいですね」と家計改善支援員の於保さつきさんは話しました。

送信

グリーンコープ生協おおさか
理事長
山田 由美さん

組合員活動をはじめて9年目になる。
活動を始めた頃は、子どもがまだ手がかかり、楽しいけどバタバタする毎日だった。
あれから子どもも大きくなり、自分にも時間ができ、色々な経験をさせていただいた。
数えてみれば、もう9年もたっていた。
活動では出会う人、出会う人が素敵で、感動することがたくさんあった。
組合員になってよかったなあと思う。
私とグリーンコープとの出会いは、友達が組合員だったということ。
良いよと勧められるがままに、組合員になった。
その友達が勧めてくれなかったらグリーンコープとは出会っていなかったと思うと、私の人生を大きく変えた友達かもしれない。
これからも一つ一つの出会い、つながりを大切にしていきたいと思う。
次は、どんな出会いがあるのか、どんな感動があるのか、とても楽しみだ。

子どもたちが安心してくらしていけるように 原発のない未来を子どもたちへつなぎたい

2018年度
脱原発学習会
グリーンコープ連合会
組織委員会
主催

1986年に起きたチェルノブイリ原発事故を受けて、グリーンコープは「原発は、すべての生命（いのち）と共存できない」という立場で、脱原発運動をすすめてきました。取り組みの一環として、チェルノブイリ原発事故の被災国の一つであるベラルーシ共和国（以下、ベラルーシ）で医療支援活動を行っているNPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク（以下、支援ネット）に協力し、毎年組合員にカンパを呼びかけています。

2018年10月18日、連合会組織委員会は、支援ネット事務局長 川原秀之さんを講師に迎えて、福岡市で脱原発学習会を行いました。学習会の要旨を報告します。



NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク
理事・事務局長
川原 秀之 さん

現地の医療活動を支える支援ネット

支援ネットは1990年に発足し、チェルノブイリ原発事故最大の被災国と言われるベラルーシで物資支援を始めた。1997年以降は、医療支援を開始。現地で活かされる支援を念頭に、甲状腺がん検診に必要な物資の支援だけでなく、日本人医師が現地の医師に細胞診や甲状腺内視鏡手術の技術を教えるなど、医療従事者の育成にも力を入れている。2013年からは被災地訪問と調査、講演会の開催など、福島第一原発事故の被害を受けた福島でも支援活動に取り組んでいる。



現地の医師に指導する日本人医師

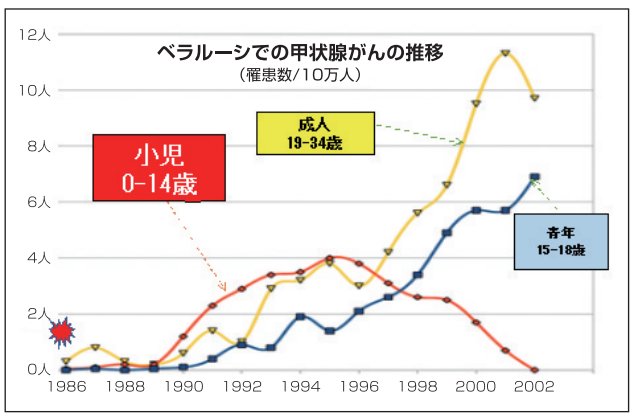


活動は現地の医師と支援ネットが二人三脚で行っている

チェルノブイリ原発事故における甲状腺がん

チェルノブイリ原発事故によって大気中に放出された放射性ヨウ素の影響で、ベラルーシでは多くの子どもたちが小児甲状腺がんになった。成長期の子どもは、特にヨウ素を吸収しやすい。ヨウ素が体内で不足していると、放射性ヨウ素を取り込みやすくなる。周辺に海がないベラルーシに住む子どもたちは、日常的に海藻類などヨウ素を含む食品の摂取量が少なく、放射性ヨウ素が体内に取り込まれやすい状態だった。

1996年頃から、チェルノブイリ原発事故による小児甲状腺がん患者数は減少しているが、現在は事故当時の子どもたちが成長し、それに伴い成人の甲状腺がんの発症が増加している。ベラルーシに比べると福島に住む甲状腺がんの患者数は少ないが、今後ベラルーシと同じように、成人の甲状腺がんが増えてくる可能性もある。



当日の学習会資料より

ベラルーシから学んだ検診の大切さ

支援活動をする中で「甲状腺がんになっても将来結婚して子どもを産むことはできるか」などの質問をよく受ける。情報が多すぎて正しい情報を見極めるのが難しく、不安になるのだと思う。専門家の意見や知見を参考に正しい情報を広めていくことが重要だ。

甲状腺がんは早期発見すれば予後良好な疾患。検診を受けることが大切だ。ベラルーシでは移動検診の受診率と再受診率が高く、医師たちも検診の重要性を訴えている。福島の受診率が年々低下していることを懸念している。支援ネットでも福島の皆さんに、検診の大切さを伝えていきたいと思う。

ベラルーシと福島をつないでいきたい

5年ぶりに訪れたベラルーシは、インフラが整備され、経済の発展が感じられた。その一方で、支援活動の拠点としていたブレスト州のストーリン地区のように、今もなお原発事故の影響が残っているところもある。今後も引き続き、ベラルーシが望む医療技術を提供していきたいと改めて思った。

2019年以降は、今まで以上に福島の支援活動に関わっていきたいと考えている。細胞診などの医療技術に関しては、日本の医師よりベラルーシの医師の方が経験を積んでいる。ベラルーシと福島をつなぎ、ベラルーシの優れた医療技術を福島の医療関係者に伝えていきたい。

支援ネットでは実際に現地を見て肌で感じてもらうことが一番だと思い、ベラルーシのスタディーツアーを計画している。

参加した組合員の感想（一部抜粋）

チェルノブイリ原発事故から30年以上経って見えてきたことに、福島の状況を重ね合わせると心が痛みます。正しい情報を得ていれば健康被害を軽減する事も不安材料を解消する事もできると分かりました。

医療支援ネットワークの活動内容についても具体的に知ることができ、私たちのカンパが命を救うことに活かされていることを実感できました。

ベラルーシと福島が太いパイプでつながることに大きな意義があると感じます。グリーンコープがそこにどう関わっていくか、今後も見守っていきたいです。



No.125

『脱原発への思い』

この夏、東京電力福島第一原発事故後、７年が経過した福島へ視察に行きました。主を失った家、経年変化で朽ちたカーテン、野生動物が割拠する荒れた土地、東日本大震災で被災した地域の中でも福島が他と違うのは、放射能汚染による被害があることだと痛感しました。突然日常を奪われ、地域のつながりが分断され、未来にわたる不安、苦しみを背負うことになったのは原発事故があったからです。その後、電気を原発に頼る必要がないにも関わらず、再び原発が稼働している理由とはいったい何なのでしょう。

今年の地震や豪雨被害の様子を見ても、いつどこで、大規模な自然災害が起きても不思議ではないこの国で、脱原発は急務だと、あらためて思った人は少なくないはずです。

自然エネルギーによる電気で生活したいと願い生まれた「グリーンコープでんき」を選ぶことで、原発とは共存できない、原発はいらないという意思を広く社会に訴えていきましょう。

グリーンコープ連合会組織委員会



グリーンコープ・グリーン電力出資金
11,883人 1,112,296,000円（2018年12月6日現在）

「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いをかなえるために、グリーンコープ・グリーン電力出資金に協力しましょう

※広島物流センター太陽光発電所は、台風24号の風災により、発電できない状態となっています。現在、復旧への準備をすすめています。

2018年10月の売電量

神在太陽光発電所売電量 98,900kWh 定格出力1,057kW（309世帯相当）	グリーン未来ソーラー売電量 37,831kWh 定格出力376kW（110世帯相当）
平池水上太陽光発電所売電量 135,039kWh 定格出力1,260kW（368世帯相当）	若宮物流センター太陽光発電所売電量 4,341kWh 定格出力47kW（14世帯相当）
深年太陽光発電所売電量 177,432kWh 定格出力1,550kW（453世帯相当）	※広島物流センター太陽光発電所売電量 0kWh 定格出力47kW（14世帯相当）
	グリーンコープやまぐち生協西部地域本部太陽光発電所売電量 4,388kWh 定格出力54kW（16世帯相当）

グリーンコープの輪・和・環

誰もが幸せに暮らせる社会をみんなでつくる



「住民目線で政治を変える会・山陰」共同代表
「でもくらcafe@米子」主宰
「自分ごと化会議in松江」実行委員会広報

吉岡 古都（こと）さん

●プロフィール
鳥取県米子市在住。
薬剤師。
グリーンコープ生協とっとり組合員



「でもくらcafe@米子」のゴミ勉強会で使用した紙芝居



「自分ごと化会議in松江」実行委員会メンバーの皆さんと。前列右が吉岡さん

社会のことを考えるようになった子育ての時期

吉岡さんは、大学を卒業後、薬剤師となって生まれ育った米子市に帰り、就職した。結婚後は、夫の転勤で中国地方を中心に転居が続く中、最初の子育ての地になった山口県下関市で、女性が社会について勉強するサークルに参加する機会があった。そこで初めて男女共同参画やジェンダー問題などについても詳しく学んだ。「子どもができたことで、世の中のことを女性目線、生活者目線で見られるようになりました」と当時を振り返る吉岡さん。サークルを主宰する女性に触発され、自分でも何かやってみようと、ほどなく子育て関連の情報発信をするサークルを立ち上げ、子育てをしながら活動を続けた。あるH、住んでいるマンションで問題が起きた。「子どもを遊ばせていたら、その声がうるさいと他の入居者の方から苦情が出たんです。近くには安心して遊ばせる公園がなく、どうすれば解決できるかまでは考えきれませんでした。私たちの要望なんて行政は聞いてくれないし、お母さんたちの力だけで問題を解決するには難しいことが多いと感じてしまいました」。

もやもやとした問題意識は持っていたものの、転勤や少し子どもの手が離れて仕事を始めたこともあって、そのまま何年も過ぎてしまった。

3・11の衝撃

2011年3月11日に起きた福島第一原子力発電所の事故は、吉岡さんにとって大きな衝撃だった。「子育ても落ち着き、世の中の情報を積極的に見聞きするようになりました。自分では政治や経済に関心があると思っていたし、他の人よりは分かっているつもりでした。でも、3・11を機に、自分はいったい世の中の何を見ていたのか分からなくなってしまいました。インターネットで、原発事故について調査した国会事故調査委員会報告書を、分かりやすく短時間で紹介するイラスト動画が公開されました。動画では、事故を反省し民主主義の仕組みを動かし、国民の声が政策や政治に反映されるような仕組みを作らなければいけないと結論付けられていました。その時『えっ、民主主義ってなんだろう』と、この歳になって目覚めたんです。高校生だった息子から、『お母さんが一人で文句を言っても国に届く訳はない。総理大臣だって自分たちでは決められないのに』と言われ、そうかと納得。もう一度民主主義を勉強するには、地方政治から始めるしかないという思いに至りました」と力を込める。

女性や母親だから世の中を変えられる

同じ頃、原発事故を気にしなくていい安全な場所で子育てをしたいと、東京から米子市に避難してきたお母さんたちと知り合った。安全な食べものについて学び合う場をつくりたいと言うお母さんたちの思いを聞いた吉岡さん。小さな子どもを連れての活動は大変だということを経験していたので、ぜひお手伝いしようと思っていた矢先、その当時問題になっていた震災瓦礫を米子市が受け入れるというニュースが飛び込んできた。「食の勉強会のはずが、瓦礫受け入れ反対運動になってしまいました。せっかく米子で安心して暮らせると思っていた人たちに追い打ちをかけるようで、本当に腹が立ちました」。

吉岡さんは、お母さんたちとの活動を通して、同じように食や原発について問題意識を持って活動している、自然エネルギーを考える女性たちやグリーンコープの組合員など、たくさんの仲間との出会いを生み出していく。「子どもの福祉や学校のこと、食べものや原発のことなど、いろんな課題をずっと考えて活動してきた方たちがいて、私たちはその方たちに守られていたことを知らずに生活してきたんだと気付きました。身近な暮らしのことを決めている議会の仕組みにもあまり関心を持っていなかったと、反省しています」と口にする。

地域の課題を自分のこととして考える

吉岡さんが主宰する「でもくらcafe@米子」では、自分たちが出した様々なゴミがどう処理されているか、手作りの紙芝居を使って分かりやすく学習するなど、暮らしの中の問題にも目を向けている。「憲法のことなどはちょっと難しいと感じるけれど、議会では、学校給食やエアコンの設置、駅の改修など、私たちの身近な問題について話し合っているんです。ちょっと覗いてみると、政治が生活に直結しているのが分かると思います」と話す。

今、吉岡さんが仲間と共に力を注いでいるのは、市民がどうしたらもっと地方の政治の場に参加できるかということ。「無作為抽出の住民で会議をするという手法で成果を上げている自治体を訪問して、とても有効な取り組みだと知りました。この手法を使った『※自分ごと化会議in松江』を仲間たちと企画しました。いろんな考えを持つ人が集まって、地域の課題などについて自分のこととして議論することで、多くの人に少しずつでも政治に関心を持ってもらえるといいですね」。

様々な活動に取り組む吉岡さんは、夫や子どものなに気ない一言がほっとさせてくれると言う。「客観的に見て助言をしてくれる家族の声は、ありがたいと思います。普通の目線で意見をくれる大事な存在です」。これからの活動については、「自分の行動が何かの力で制限されたり、発言が誰かに抑え込まれたり、見たいものが見られない社会でなく、人として自由でありたいと思います。女性が生きやすい世の中が続くようにしたいという思いがあります」と、吉岡さんは笑顔で語る。

※住民基本台帳や選挙人名簿から無作為で抽出された住民が、まちの課題などについて、詳しい人の意見を聞きながら議論する会議

投稿コーナー

私の好きなグリーンコープ商品

北海道産小麦粉（強力）



パン作りに絶対欠かせないのは、「北海道産小麦粉（強力）」です。

粉が切れた時、市販品も二、三試してみましたが、出来上がりの風味や質感が、「北海道産小麦粉（強力）」に勝るものはありませんでした。パンは、粉によって全く違います。手間ひまもかかるパン作りなので、せっかくなら良い粉で作りたいです。

「海水塩（なぎさ）」（塩）、「奄美きびさとう」、「よつ葉スキムミルク」、「白神こだま酵母ドライ」、「よつ葉バター（バターブレンドマーガリンでもOK）」を使えば、有名ベーカリーにも負けないおいしさです。

グリーンコープ生協くまもと　吉里 安由美

投稿募集中

●私のすきなグリーンコープ商品
●250字程度
●〆切 毎月末
●住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。
掲載分にはグリーン券（グリーンコープ商品の購入に利用できます）500円分を進呈。
●住所・氏名などの組合員の個人情報は、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561
福岡市博多区博多駅前1丁目5-11
博多大博通ビルディング3F
グリーンコープコミュニケーションワーカーズ連（REN）
「共生の時代」編集部 宛
FAX 092-481-7876
Eメールアドレス
rikoho@greencoop.or.jp

Vol.71 グリーンコープのイチオシ！

グリーンコープのこだわりが詰まった ツナフレーク缶



ツナフレーク缶（オイル調理）
野菜スープと国産米油、海水塩（なぎさ）を加えています。油分が内容量の18～19%と控えめなので、カロリーは市販品（七訂日本食品標準成分表まぐろフレーク油漬）に対し15%カットとヘルシーです。



ツナフレーク缶（野菜スープ調理）
ツナの風味を調える調味液は、海水塩（なぎさ）と野菜スープを使用。ツナの味がぐっとまろやかになります。

グリーンコープのツナフレーク缶は、約30年前に登場しました。子どもたちに人気のツナマヨのおにぎりも手軽に作れ、パスタや炊き込みご飯にもぴったり。長い間、組合員に愛されている商品です。

約20年前、環境ホルモン問題が明らかになった時は、一旦供給を止めて、環境ホルモン溶出の心配のない安全な容器の開発も行いました。中身にも容器にもこだわった、グリーンコープ自慢のツナフレークです。



原材料は鮮度管理にこだわった きはだまぐろ

まぐろ原料の中でも比較的資源が豊富な「きはだまぐろ」を使っています。缶詰にした時のきれいな身の色も特長です。遠洋の太平洋沖で漁獲され、※ブライン凍結設備のある船で急速冷凍。運搬船で缶詰工場がある静岡県の清水港まで運ばれます。鮮度管理を徹底しながら、魚の頭と内臓を取った後に蒸します。内臓を丁寧に取って蒸すことで、より美味しいツナになります。蒸した後、手作業で皮や骨を丁寧に取り、機械で身をフレーク状にして缶に詰めます。

※魚体の中心部まで急速に凍結する方法



手間ひまかけて作った野菜スープ

調味液に使われている野菜スープは、乾燥させた国産野菜のたまねぎ、にんじん、キャベツを、缶詰工場で約3時間かけてじっくりと煮出しています。化学調味料などは一切使っていません。



グリーンコープの 環境ホルモン対策

グリーンコープは前身生協の時代から、取り扱う商品について、「食品包材に塩化ビニル※2を使わない」「調味料などの容器はびんを使う」など、化学物質に不安をもつ組合員の視点を大切にしてきました。

約20年前、環境ホルモン問題が社会的に明らかになり、その中で、缶の内部のコーティング剤から、※3ビスフェノールAの溶出の危険性が指摘されました。グリーンコープは直ちに調査を行い、ツナフレーク缶を含む、ビスフェノールA溶出の心配がある缶詰23品目の供給を停止。その後随時、ビスフェノールAが溶出しない缶に切り替えていきました。

※1 正式には「外因性内分泌かく乱化学物質」。生物やヒトの体内のホルモンの働きをかく乱する作用を持つ化学物質の総称。超微量でも生体のホルモンの働きを阻害し、生命活動に異常をきたすことが問題になっている

※2 燃焼すると環境ホルモン物質の一つであるダイオキシン類が発生する

※3 環境ホルモンの一つ。ポリカーボネイト製の食器や哺乳びん、エポキシ樹脂でコーティングされた缶詰から溶出



2018年11月の組合員数
420498人（11/20現在）

リユース、リサイクルデータ
2018年10月分（回収率）

牛乳びん 回収率 98.1%	トレー 回収率 44.4%
リユースびん 回収率 73.5%	仕分け袋 回収率 11.1%
モウルドパック 回収率 106.7%	カタログ 回収率 70.5%

フードマイレージ
2018年11月に組合員の利用によってたまったのは
6,819,844.5 poco
CO2に換算して682トンを削減したことになります
2009年9月からの累計は、659,998,157.0ポコ

アジア民衆基金
2018年11月に組合員の利用によってたまったのは
458,338円
2009年4月からの累計は、65,202,401円

お詫びと訂正
共生の時代12月号7面の「グリーンコープの輪・和・環」に掲載した写真キャプションにて、お名前を間違って「小池眞理子さん」とご紹介しましたが、正しくは「小出眞理子さん」でした。お詫びして訂正いたします。

製造メーカーのいなば食品（株）に話を聞きました

グリーンコープのこだわりが、より良い商品作りの指針となった



いなば食品（株）
執行役員 商品開発部 部長
加藤　文克さん

近年国産のツナ缶は、船で冷凍されたまぐろを人件費が安い海外で加工し、再冷凍された原料を使用することが多いようです。冷凍と解凍の回数が増えれば、旨味が溶け出してしまうことになります。ツナフレーク缶は、国内で加工することで解凍が1回で済み、きはだまぐろの旨味が残った食感の良いツナフレークになります。グリーンコープのツナフレークは、本当に美味しいと思います。

野菜スープは、乾燥させた国産野菜を工場で煮出します。一般的によく使われる濃縮エキスを薄めたスープに比べ自然な野菜の風味が生かされ、まったく違うことに驚きます。そのことを缶に書きたいくらいです。手間ひまかけた野菜スープは、オイル調理のツナフレーク缶にも使っています。調理する際はスープやオイルも美味しいので、利用していただければ嬉しいです。

ツナフレーク缶は一時期、供給停止になったことがあります。缶詰容器に使われるコーティング剤から溶出する、環境ホルモンのビスフェノールAが問題になったからです。残念でしたが、大切なことだと思いました。当時、ビスフェノールAが溶出しない缶を供給できる製缶会社はありませんでした。現在も取り引きしている製缶会社が、そのすばらしい技術を同業の会社に先んじて開発できたのは、グリーンコープのおかげという面もあると思います。しかし実現するまでには、大変な時間と労力、工夫が必要でした。

ツナフレーク缶は、一つ70グラムという小さな缶ですが、原材料のこだわり、調味料のこだわり、そして環境ホルモン対応缶というこだわりが詰まった、他にはないツナの缶詰です。約30年、こだわりの一つひとつを、グリーンコープと一緒に実現してきました。自慢のツナフレーク缶を、ぜひたくさんの組合員さんに利用していただきたいです。

みどりの地球をみどりのままで…

グリーンコープ

共生の時代 別紙

放射能汚染と向きあう（放射能測定室より）

●発行　一般社団法人グリーンコープ共同体理事会　●編集　共生の時代・編集部

〒812-8561　福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号 博多大博通ビルディング3階　●電話（092）481-7923　●FAX（092）481-7876　●ホームページ：http://www.greencoop.or.jp/

東京電力の原子力発電所の事故を受けて行った残留放射能検査結果㉒

2018年10月31日から11月28日に99品目の検査を行い「17293小海老入り田づくり」からグリーンコープのアクション基準（10ベクレル／kg）以下の残留放射能が検出されました。

※原料産地欄の案内は、単一原料もしくは主たる原料が明らかな場合はその原料の産地を表現しています。パンは菓子パンも含めて小麦の産地を記載しています。また、複数の原料で、主たる原料がわかりにくいもの、もしくは産地が多岐にわたる場合は原料産地に「――」（横線）を記載しています。
※2013年度の新米から西日本地区の産地のお米は産地単位の測定に変更となっています。東北の米は従来どおり産地毎・品種毎の測定です。
※「検出限界」とは、放射能検査において測定できる最小値のことをいいます。
※検査法の記号 「Ge」はゲルマニウム半導体検出器での測定を示しています。
※下記一覧表の結果の「検出せず」は、検出限界を超えての検出はなかったことを表しています。

グリーンコープで残留放射能を測定している「ゲルマニウム半導体検出器」が故障し、修理が完了するまで、測定を同レベルで検査できる機関「一般財団法人　日本食品検査」に外注しました。外注先の残留放射能測定器の条件設定(検出限界は１ベクレルの設定)により、これまでのグリーンコープでの「検出限界値」の表現が「検出限界」となり、検出限界はすべて１ベクレルになります。（「検出限界値」も「検出限界」も表現の違いのみで、条件設定の範囲で計測できる最小値です）
※修理が完了したため、2018年11月28日よりグリーンコープ放射能測定室で検査を再開しました。

番号	商品分類		商品名	原料産地	製造地	製造日、収穫日等	測定日	検査法(Ge/NaI)	ヨウ素－131		セシウム－134		セシウム－137	
									結果(Bq/kg)	検出限界(Bq/kg)	結果(Bq/kg)	検出限界(Bq/kg)	結果(Bq/kg)	検出限界(Bq/kg)
17276	1	米	産直赤とんぼひのひかり（農薬不使用）（玄米）（筑後減農薬研究会） 産直赤とんぼ無洗米ひのひかり（農薬不使用）（玄米）（筑後減農薬研究会）	福岡県筑後市	福岡県小郡市	2018/10/20収穫	2018/11/21	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17275	1	米	産直赤とんぼ夢つくし赤村のめぐみ（農薬不使用）（玄米）（赤村有機農業生産組合）	福岡県田川郡	熊本県山鹿市	2018年10月収穫	2018/11/21	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17274	1	米	宮崎県日向産こしひかり（玄米）	宮崎県日向市	熊本県山鹿市	2018年8月収穫	2018/11/21	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17273	1	米	産直赤とんぼこしひかり（農薬不使用）（玄米）（鹿児島きもつき農協）	鹿児島県鹿屋市	熊本県山鹿市	2018年8月収穫	2018/11/21	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17272	1	米	くまもと菊鹿の棚田米（玄米）	熊本県山鹿市	熊本県山鹿市	2018年10月収穫	2018/11/21	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17271	1	米	熊本県産菊池米（玄米）	熊本県山鹿市	熊本県山鹿市	2018年10月収穫	2018/11/21	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17270	1	米	産直赤とんぼ夢つくし（農薬不使用）（玄米）（福岡市農協）	福岡県福岡市	福岡県小郡市	2018年9月収穫	2018/11/21	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17236	1	米	佐賀県脊振産夢しずく	佐賀県神埼市	佐賀県多久市	2018年10月収穫	2018/11/15	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17235	1	米	産直赤とんぼひのひかり（農薬不使用）（玄米）（島根県農協やすぎ）	島根県安来市	福岡県小郡市	2018/10/14収穫	2018/11/12	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17234	1	米	産直肥後七草会の森のくまさん（農薬不使用）（玄米）（肥後七草会）	熊本県宇城市	熊本県山鹿市	2018年10月収穫	2018/11/12	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17233	1	米	産直赤とんぼこしひかり（農薬最低減）（玄米）（阿蘇農協阿蘇） 産直赤とんぼ無洗米こしひかり（農薬最低減）（玄米）（阿蘇農協阿蘇）	熊本県阿蘇市	福岡県小郡市	2018/10/5収穫	2018/11/12	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17220	1	米	産直赤とんぼ有機栽培玄米直送（ライスファーム菊池）	熊本県菊池市	熊本県菊池市	2018/10/21収穫	2018/11/12	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17313	2	青果	産直ブロッコリー（かきのきむら）	島根県鹿足郡	原料産地に同じ	2018/11/20収穫	2018/11/28	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17312	2	青果	産直ブロッコリー（柿木村有機野菜組合）	島根県鹿足郡	原料産地に同じ	2018/11/20収穫	2018/11/28	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17311	2	青果	産直ブロッコリー（黒木有機農業の会）	福岡県八女市	原料産地に同じ	2018/11/20収穫	2018/11/28	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17310	2	青果	産直ブロッコリー（綾菜会）	宮崎県東諸県郡	原料産地に同じ	2018/11/20収穫	2018/11/28	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17309	2	青果	産直ブロッコリー（綾照葉会）	宮崎県東諸県郡	原料産地に同じ	2018/11/20収穫	2018/11/28	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17308	2	青果	産直ブロッコリー（肥後七草会）	熊本県八代市	原料産地に同じ	2018/11/19収穫	2018/11/28	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17307	2	青果	産直下郷農協野菜セット（下郷農協）	（小松菜・ねぎ・春菊・なばな菜・ほうれん草・サニーレタス・チンゲンサイ・いんげん・里芋・大根）大分県中津市	大分県中津市	（小松菜・ねぎ・春菊・なばな菜・ほうれん草・サニーレタス・チンゲンサイ・いんげん・里芋・大根）2018/11/19収穫	2018/11/28	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17306	2	青果	産直トマト（南阿蘇ファーマーズ）	熊本県菊池市	原料産地に同じ	2018/11/18～20収穫	2018/11/28	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17305	2	青果	産直トマト（肥後七草会）	熊本県熊本市	原料産地に同じ	2018/11/18収穫	2018/11/28	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17304	2	青果	産直ミニトマト（佐伊津有農研）	熊本県天草市	原料産地に同じ	2018/11/17収穫	2018/11/28	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17303	2	青果	産直ミニトマト（アイコ）（産直なごみ）	熊本県玉名郡	原料産地に同じ	2018/11/18収穫	2018/11/28	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17302	2	青果	産直なす（産直なごみ）	熊本県玉名郡	原料産地に同じ	2018/11/18、19収穫	2018/11/28	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17301	2	青果	産直なす（八女の郷）	福岡県みやま市	原料産地に同じ	2018/11/20収穫	2018/11/28	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17292	2	青果	産直菊芋（肥後やまと）	熊本県上益城郡	原料産地に同じ	2018/11/16収穫	2018/11/23	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17291	2	青果	産直ほうれん草（中村グループ）	福岡県久留米市	原料産地に同じ	2018/11/15収穫	2018/11/23	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17290	2	青果	産直水菜（みのり会）	佐賀県東松浦郡	原料産地に同じ	2018/11/17収穫	2018/11/23	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17289	2	青果	産直水菜（糸島ＢＭ農法研究会）	福岡県糸島市	原料産地に同じ	2018/11/17収穫	2018/11/23	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17287	2	青果	産直小さな大根（金武友愛会）	福岡県福岡市	原料産地に同じ	2018/11/19収穫	2018/11/23	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17286	2	青果	産直大根（グリーンあさくら）	福岡県朝倉市	原料産地に同じ	2018/11/19収穫	2018/11/23	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17284	2	青果	産直いちご（ながさき南部生産組合）	長崎県雲仙市	原料産地に同じ	2018/11/17収穫	2018/11/23	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17288	2	青果	産直なばな菜（金武友愛会）	福岡県福岡市	原料産地に同じ	2018/11/19収穫	2018/11/22	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17285	2	青果	産直大根（佐伊津有農研）	熊本県天草市	原料産地に同じ	2018/11/17収穫	2018/11/22	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17283	2	青果	産直菊芋（みのり会）	佐賀県東松浦郡	原料産地に同じ	2018/11/15収穫	2018/11/22	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17282	2	青果	産直梨（あたご）（日野農園グループ）	福岡県朝倉市	原料産地に同じ	2018/11/3収穫	2018/11/22	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17281	2	青果	産直二つ葉りんご（王林）（岩手中央農協）	岩手県紫波郡	原料産地に同じ	2018/11/9収穫	2018/11/22	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17280	2	青果	産直キウイ（綾照葉会）	宮崎県東諸県郡	原料産地に同じ	2018/10/30収穫	2018/11/22	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17267	2	青果	産直キウイ（八女の郷）	福岡県筑後市	原料産地に同じ	2018/11/7収穫	2018/11/19	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17266	2	青果	産直キウイ（みのり会）	佐賀県唐津市	原料産地に同じ	2018/11/5収穫	2018/11/19	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17265	2	青果	産直キウイ（日野農園グループ）	福岡県朝倉市	原料産地に同じ	2018/11/5収穫	2018/11/19	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17264	2	青果	産直みかん（天水グループ）	熊本県玉名市	原料産地に同じ	2018/11/10収穫	2018/11/16	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17263	2	青果	産直みかん（肥後七草会）	熊本県宇城市	原料産地に同じ	2018/11/9収穫	2018/11/16	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17262	2	青果	産直みかん（佐伊津有農研）	熊本県天草市	原料産地に同じ	2018/11/7収穫	2018/11/16	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17261	2	青果	産直みかん（井上農園）	長崎県南島原市	原料産地に同じ	2018/11/8収穫	2018/11/16	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17260	2	青果	産直みかん（アグリネット）	熊本県宇城市	原料産地に同じ	2018/11/10収穫	2018/11/16	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17259	2	青果	産直みかん（八女の郷）	福岡県八女市	原料産地に同じ	2018/11/11収穫	2018/11/16	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17258	2	青果	産直ぽんかん（佐伊津有農研）	熊本県天草市	原料産地に同じ	2018/11/10収穫	2018/11/16	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17257	2	青果	産直白ねぎ（根深）（綾菜会）	宮崎県東諸県郡	原料産地に同じ	2018/11/11収穫	2018/11/16	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17256	2	青果	産直白ねぎ（根深）（綾照葉会）	宮崎県東諸県郡	原料産地に同じ	2018/11/9収穫	2018/11/16	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17255	2	青果	産直洋梨（シルバーベル）（ながの農協飯綱）	長野県上水内郡	原料産地に同じ	2018/10/21収穫	2018/11/16	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17254	2	青果	産直パセリ（グリーンあさくら）	福岡県朝倉市	原料産地に同じ	2018/11/12収穫	2018/11/16	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17253	2	青果	産直春菊（グリーンあさくら）	福岡県朝倉市	原料産地に同じ	2018/11/12収穫	2018/11/16	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17244	2	青果	産直きゅうり（産直なごみ）	熊本県山鹿市	原料産地に同じ	2018/11/9収穫	2018/11/15	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00

※下記一覧表の結果の「検出せず」は、検出限界を超えての検出はなかったことを表しています。

番号	商品分類		商品名	原料産地	製造地	製造日、収穫日等	測定日	検査法(Ge/NaI)	ヨウ素－131		セシウム－134		セシウム－137	
									結果(Bq/kg)	検出限界(Bq/kg)	結果(Bq/kg)	検出限界(Bq/kg)	結果(Bq/kg)	検出限界(Bq/kg)
17243	2	青果	産直アップルキウイ(八女の郷)	熊本県荒尾市	原料産地に同じ	2018/11/1収穫	2018/11/15	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17242	2	青果	産直四つ葉玉ねぎ(北海道産)(一心生産組合)	北海道滝川市	北海道旭川市	2018/10/20収穫	2018/11/15	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17241	2	青果	産直ブロッコリー(清和有農会)	熊本県上益城郡	原料産地に同じ	2018/11/10収穫	2018/11/15	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17240	2	青果	産直ブロッコリー(御岳会)	熊本県上益城郡	原料産地に同じ	2018/11/9収穫	2018/11/15	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17239	2	青果	産直ブロッコリー(吾妻有研)	長崎県雲仙市	原料産地に同じ	2018/11/9収穫	2018/11/15	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17238	2	青果	産直グリーンリーフ(愛農会)	熊本県上益城郡	原料産地に同じ	2018/11/10収穫	2018/11/15	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17219	2	青果	産直チンゲンサイ(佐伊津有農研)	熊本県天草市	原料産地に同じ	2018/11/5収穫	2018/11/12	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17218	2	青果	産直小松菜(グリーンあさくら)	福岡県朝倉市	原料産地に同じ	2018/11/4収穫	2018/11/12	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17217	2	青果	産直大根(赤村産直の会)	福岡県田川郡	原料産地に同じ	2018/11/4収穫	2018/11/12	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17216	2	青果	産直サニーレタス(アクアファームくるめ)	福岡県久留米市	原料産地に同じ	2018/11/2収穫	2018/11/12	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17224	2	青果	産直四つ葉さつま芋(安納紅)(星原農園)	鹿児島県鹿毛郡	原料産地に同じ	2018/11/3収穫	2018/11/9	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17223	2	青果	産直人参(島原自然塾)	長崎県島原市	原料産地に同じ	2018/11/3収穫	2018/11/9	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17222	2	青果	産直人参(綾菜会)	宮崎県東諸県郡	原料産地に同じ	2018/11/5収穫	2018/11/9	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17221	2	青果	産直人参(愛農会)	熊本県上益城郡	原料産地に同じ	2018/11/4収穫	2018/11/9	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17251	3	牛乳・乳製品	蒜山ジャージーヨーグルトプレミアム　プレーン	(生乳)岡山県真庭市	岡山県真庭市	2018/10/29製造	2018/11/7	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17300	9	パン類	じゃりパン(永田パン)	(小麦)九州各地、北海道	熊本県熊本市	(小麦)2016年、2017年収穫	2018/11/28	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17299	9	パン類	じゃりパン(堀江製パン)	(小麦)九州各地、北海道	佐賀県佐賀市	(小麦)2016年、2017年収穫	2018/11/27	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17298	9	パン類	じゃりパン(フルタパン)	(小麦)九州各地、北海道	福岡県福岡市	(小麦)2016年、2017年収穫	2018/11/27	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17297	9	パン類	じゃりパン(富士製パン)	(小麦)九州各地、北海道	山口県防府市	(小麦)2016年、2017年収穫	2018/11/27	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17296	9	パン類	じゃりパン(なんぽうパン)	(小麦)九州各地、北海道	島根県出雲市	(小麦)2016年、2017年収穫	2018/11/27	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17295	9	パン類	じゃりパン(ドンバル堂)	(小麦)九州各地、北海道	福岡県北九州市	(小麦)2016年、2017年収穫	2018/11/27	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17250	9	パン類	つぶあんぱん(永田パン)	(小麦)九州各地、北海道 (小豆)北海道	熊本県熊本市	(小麦)2016年、2017年収穫 (小豆)2017年収穫	2018/11/7	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17249	9	パン類	つぶあんぱん(堀江製パン)	(小麦)九州各地、北海道 (小豆)北海道	佐賀県佐賀市	(小麦)2016年、2017年収穫 (小豆)2017年収穫	2018/11/7	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17248	9	パン類	つぶあんぱん(フルタパン)	(小麦)九州各地、北海道 (小豆)北海道	福岡県福岡市	(小麦)2016年、2017年収穫 (小豆)2017年収穫	2018/11/7	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17247	9	パン類	つぶあんぱん(富士製パン)	(小麦)九州各地、北海道 (小豆)北海道	山口県防府市	(小麦)2016年、2017年収穫 (小豆)2017年収穫	2018/11/7	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17246	9	パン類	つぶあんぱん(なんぽうパン)	(小麦)九州各地、北海道 (小豆)北海道	島根県出雲市	(小麦)2016年、2017年収穫 (小豆)2017年収穫	2018/11/7	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17245	9	パン類	つぶあんぱん(ドンバル堂)	(小麦)九州各地、北海道 (小豆)北海道	福岡県北九州市	(小麦)2016年、2017年収穫 (小豆)2017年収穫	2018/11/7	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17230	9	パン類	ノア・レザン(湯種仕込み)(永田パン)	(小麦)北海道 (ぶどう)トルコ (くるみ)アメリカ	熊本県熊本市	(小麦・ぶどう)2017年8月～9月収穫 (くるみ)2017年収穫	2018/11/3	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17228	9	パン類	ノア・レザン(湯種仕込み)(フルタパン)	(小麦)北海道 (ぶどう)トルコ (くるみ)アメリカ	福岡県福岡市	(小麦・ぶどう)2017年8月～9月収穫 (くるみ)2017年収穫	2018/11/3	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17226	9	パン類	ノア・レザン(湯種仕込み)(なんぽうパン)	(小麦)北海道 (ぶどう)トルコ (くるみ)アメリカ	島根県出雲市	(小麦・ぶどう)2017年8月～9月収穫 (くるみ)2017年収穫	2018/11/3	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17229	9	パン類	ノア・レザン(湯種仕込み)(堀江製パン)	(小麦)北海道 (ぶどう)トルコ (くるみ)アメリカ	佐賀県佐賀市	(小麦・ぶどう)2017年8月～9月収穫 (くるみ)2017年収穫	2018/11/2	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17227	9	パン類	ノア・レザン(湯種仕込み)(富士製パン)	(小麦)北海道 (ぶどう)トルコ (くるみ)アメリカ	山口県防府市	(小麦・ぶどう)2017年8月～9月収穫 (くるみ)2017年収穫	2018/11/2	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17225	9	パン類	ノア・レザン(湯種仕込み)(ドンバル堂)	(小麦)北海道 (ぶどう)トルコ (くるみ)アメリカ	福岡県北九州市	(小麦・ぶどう)2017年8月～9月収穫 (くるみ)2017年収穫	2018/10/31	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17252	10	魚介類・水産ねり製品	長崎一番　おでん7種12品	(すけそうだら)北海道 (えそ)タイ (雑魚)長崎県 (キャベツ・玉ねぎ・うずらの卵)国内各地	長崎県長崎市	2018/11/10製造	2018/11/16	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17269	11	茶・その他飲料	旬に搾ったりんごジュース(びん)	(りんご)青森県	青森県弘前市	(りんご)2018年11月収穫	2018/11/19	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17268	11	茶・その他飲料	旬の林檎(ジュース)	(りんご)青森県	青森県弘前市	(りんご)2018年11月収穫	2018/11/19	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17237	13	冷凍加工品	若鶏八幡巻	(鶏肉)ＧＣ産直産地 (ごぼう)国内各地	宮崎県北諸県郡	2018/11/7製造	2018/11/15	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17232	13	冷凍加工品	パーティー串揚げセット	(鶏肉)ＧＣ産直産地	福岡県福岡市	2018/11/7製造	2018/11/12	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17215	13	冷凍加工品	さしみゆば	(大豆)愛知県	愛知県名古屋市	(大豆)2017年収穫	2018/11/12	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17293	14	常温加工品	小海老入り田づくり	(いわし)福井県、京都府、山口県 (えび)茨城県	佐賀県唐津市	(いわし)2018年7月～9月漁獲 (えび)2018年9月～10月漁獲	2018/11/26	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	1.50	1.00
17279	14	常温加工品	国産栗のはちみつ含め煮	(くり)愛媛県	愛媛県大洲市	(くり)2018年9月～10月収穫	2018/11/21	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17231	14	常温加工品	国産具材の五目ちらし(２合用)	(人参)国内各地 (かんぴょう)栃木県 (れんこん)愛知県 (しいたけ)九州各地	岐阜県本巣市	2018/10/30製造	2018/11/9	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17294	15	菓子類	つぶつぶ柚餅子(ゆべし)	(米)島根県 (ゆず)国内各地	島根県松江市	(米)2017年収穫 (ゆず)2017年11月収穫	2018/11/28	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17278	15	菓子類	芋甘納豆	(さつま芋)鹿児島県	福岡県飯塚市	(さつま芋)2017年収穫	2018/11/15	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00
17277	15	菓子類	北海道産黒豆甘納豆	(黒豆)北海道	福岡県飯塚市	(黒豆)2017年収穫	2018/11/15	Ge	検出せず	1.00	検出せず	1.00	検出せず	1.00

検査結果については、ホームページでも週に一度のペースでお知らせします。表記についてもホームページと同様にしています。

●放射性セシウムの基準値について

2012年4月からの国の基準は、一般食品100ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳50ベクレル/kg、飲料水10ベクレル/kg以下です。

グリーンコープは取り扱うすべての商品や原料について10ベクレル/kgを自主基準とし、10ベクレル/kg以上の数値が出た場合、一般社団法人グリーンコープ共同体理事会に報告し、取り扱いについて検討・決定することにしています。

●グリーンコープでの放射能検査内容と報告について

検査対象エリア　グリーンコープでは、商品や原料について放射能汚染が心配される地域は関東から東北地方が中心であるものの、必ずしもエリアを限定して考えるべきではないという判断で、また利用される組合員の心配に対応するためにも検査対象を全国に広げています。また外国産の食品も検査対象にしています。

検査対象　2011年3月11日以降に、生産・製造・保管されていた商品及び原料を順次検査しています。定期的なサイクルで検査を行えるよう年間計画を立てて検査します。

検査機関　2011年10月よりグリーンコープ放射能測定室(福岡市)で検査をしていましたが、「ゲルマニウム半導体検出器」が故障し、2018年10月19日より「一般財団法人　日本食品検査」に検査を外注しました。修理が完了し、11月28日よりグリーンコープ放射能測定室で検査を再開しました。

検査日　検体を測定した日を記入しています。

検査結果の表記　ヨウ素131とセシウム134、セシウム137の3種類について結果をお知らせします。検出限界未満の結果については「検出せず」と表記します。「検出限界」とは、測定できる最小値のことをいいます。

※「検出せず」と表記しても、放射能は0ではなく、放射能は存在する可能性があります。厚生労働省から2011年9月29日付けで、検出限界値未満の結果については、測定によって得られた検出限界値を表示するように通知が出されており、国や自治体から公表される検査結果には、検出限界値が表示されています。

※グリーンコープはこれまで、放射能の特性として同じ機器で測定しても検体ごとに検出限界値が変動するため、検出限界値を表示し、検出限界を超えての検出がなかった場合は「検出せず」と表記してきました。外注した機関では、検出限界は１ベクレルに設定されていたため、検出限界は全て「1ベクレル」と表示しています。（「検出限界値」も「検出限界」も表現の違いのみで、条件設定の範囲で計測できる最小値です）